



発行日：平成30年11月
編集・発行：矢作川流域圏懇談会事務局

◆第2回市民部会を開催しました！

昨年度までの市民会議から、より市民目線で自由に発言できる場をめざして市民部会という名称にリニューアルしました。今回のWGでは、ワークショップ形式で流域の良い面、悪い面を流域マップに示し、今後の議論のための可視化を試みました。

日時：平成30年10月23日（火）14:00～17:00
会議場所：豊田市崇化館交流館4階 第2会議室
参加者：16名（事務局含む）



◆主な会議内容

1. 最近の懇談会の進捗報告

【第1回合同部会】8月24日

岡崎市で合同部会が実施されました。矢作川流域に関する科学的な研究成果、特に矢作川の水質について情報共有しました。矢作川の長期的な変化や上下流の問題・課題を改めて認識することができました。

【第1回市民部会】8月30日

豊田市で市民部会が実施されました。これまで、市民部会として「ごみ・流木」「土砂」「木づかい」の3つのテーマについて議論されてきましたが、改めて上下流の優れた点や問題点について、形に残してはどうかという意見が出ました。そのため、次回の第2回市民部会では、ワークショップ形式で意見交換を行うことになりました。

【矢作川感謝祭2018】9月2日

豊田市千石公園において矢作川感謝祭が行われました。今回は流域4つの森林組合（恵那・根羽・豊田・岡崎）による出展に加え、東幡豆漁協三河組長による海の生き物の展示が行われ、流域一体化を意識することができました。

【第5回三河湾大感謝祭】10月28日

蒲郡市民会館において三河湾大感謝祭が行われ、木のおもちゃの展示などにより、三河湾につながる上流域の山の情報を発信しました。

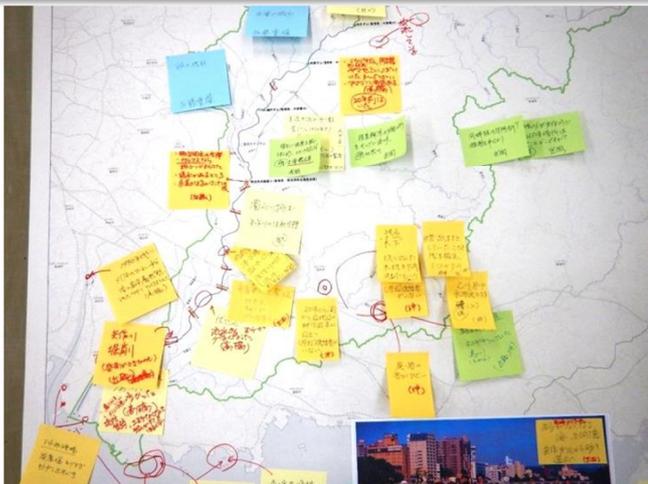
2. ワークショップ

前回の市民部会では山・川・海の部会員が一堂に会し、矢作川流域で生活する住民の視点から、多様な話し合いが進められました。その中で、地域住民が矢作川の情報に触れる機会が少ないことが課題として抽出され、情報を発信できる場を市民部会で作成したいという意見があげられました。大きなイベントや体験学習、SNSを用いるなど、さまざまな手段が提案され、情報の発信方法の検討は今後の活動の中心になると考えられます。

今回の市民部会では、ワークショップ形式で良い面と悪い面を併記した形で矢作川流域圏の現状をマップに示すことになりました。そして、出席者の思いを時間の許す限り語って、結果をとりまとめました。

3. まとめ ～市民部会が期待する流域圏のあり方について～

市民部会でも9年のまとめについて、これまでの市民部会（市民会議）で検討したことをしっかり整理しながら、何かに焦点をあてて、次年度につながる流れをつくる必要があります。出席者全員で、意見交換を行いました。



◆話し合いでの主な意見 (・意見 ▶回答)

●最近の懇談会の進捗報告 (合同部会)

- ・「シジミ、アサリを増やす森と里からの湧水」と題して話題提供を行った。シジミやアサリは植物プランクトンが重要な餌となっているが、一言で植物プランクトンといっても緑藻と珪藻をはじめとするさまざまな藻類が含まれる。中でも特に栄養塩を豊富に含む珪藻が、シジミの生息に重要な役割を果たしていることがわかっている。窒素やリンが水中に溶けやすいのに対し、ケイ酸はガラス質として地表に固定されている。そのことが、ケイ酸を定量的に示すことができず、環境の指標に扱われにくい結果を招いている。(井上)
- ・ケイ酸の役割については初めて知ったことであり、非常に興味深く聞かせてもらった。(山本薫)
 - ▶ 薫さんが所有される田んぼのイネは、たくさんのケイ酸を吸収する。そのため、足りなくなるとケイ酸石灰肥料(ケイカル)で補う。ケイ酸石灰肥料を施すと、イモチ病などに強い個体を作ることができる。ケイ酸は、他の栄養素と違い過剰害がないという最大の特徴があり、非常に安全な物質である。(井上)

●ワークショップ

- ・矢作川の湧水(伏流水)の分布については経年的に調べられているのか。(高橋)
 - ▶ 昔は多かったが、だいぶ減ったと聞く。(加藤)
 - ▶ 安城市の住民によると、昔は少し家の周りを掘ると、簡単に水が湧いたとのこと。また、河川区域内は細い本川があり、ほとんど砂であった。(高橋)
- ・矢作川の象徴の一つは「百々の貯木場」である。その昔、川の役割として最も大事だったのは治水でも利水でもなく、木材運搬に利用された舟運であった。一般的な河川の歴史をみると、舟運が盛んな時代はダムが設置できない。次第に舟運が廃れ、鉄道に代わるようになるとダムが造られ、治水や利水の話がとりざたされるようになった。矢作川も他の河川と同様の歴史をたどっており、貯木場は貴重な遺産であると考えている。(近藤)
- ・碧南には水族館があって、昔は海であった。そこが矢作川の付け替えから土砂が流れて陸地化し、油ヶ淵ができて埋め立てをした。衣浦湾では豊かな海がなくなった歴史があり、水族館は豊かな海の代償としてつくられた。(近藤)
- ・矢作川水系では、国の天然記念物であるネコギギの減少が著しい。(近藤)
 - ▶ 額田の鳥川や雨山ダムにはネコギギが多かった。減少の主な原因は何か。(沖)
 - ▶ 大きな原因の一つに砂防工事があるといわれている。(近藤)
- ・昔の写真をみると、矢作川は大河であり、広い河原があって、子どもたちが泳いでいて、見張の大人が近くにいる、堤防からみたら白い河原の風景であった。その後、ダムができて少し時間が経つと草が生い茂り、竹林が増え、大きな段差の下に川が流れるようになった。あれでは川に親しむ気にならない。自分の思いとしては、昔の河原が復活し、いかに泳ぎたくなるような川に戻ることが望ましいと考えている。(内田)
- ・源流地域の見どころとして、サワラとブナの混交林である矢作川源流、茶臼山北面の森があげられる。また、上下流連携の山づくりというテーマで整備をしている矢作川源流の森(80年生くらいのスギ・ヒノキ)は、現在、環境教育林にしていこうという議論が生じている。他にも源流の森では、林業機械を使った搬出方法を示したモデル林、複数の自治体が特定の樹種を推奨する県産材トライアングル構想が進められている。(今村)
- ・私は、「矢作川への思いとして」とか、「矢作川の良さとして」とか、地域の人々が親しむことができる水辺をあげたいと思う。例えば、古岸水辺公園や久澄橋の左岸側が、それに該当する。また、河畔林の活用として成功している場所や景観として残すべき場所についても示していけたらいいと考えている。(光岡)
- ・額田には、紙すきをしていたと考えられるミツマタの群生地がある。また、伐った木を川から流していた場所として「木下(きくだし)」という地名が残っている。このような後世に残すべき内容や地名も残していきたいと思う。(沖)
- ・ダムにより濁水が長期化するなどの問題もある。ダムの撤去による長所短所を議論することも必要だと思う。(井上)
- ・矢作川の湧水や伏流水の今昔を考えたい。また、流域下水道の栄養塩類の削減と再放出についても確認したい。(高橋)
- ・魚の密度など経年的な調査が必要だと思う。また、川を一定の間隔で団体に貸し与えて管理させてはどうか。(菅原)
- ・中山間地の過疎の問題は、流域市民が自然に接しない生き方にある。自分は過疎にならないように、移住定住の促進に力を入れている。過疎化の防止が維持できなければ、流域全体が崩壊することは東海豪雨が証明している。シカやイノシシが増えたのは山奥まで人が行かなくなったためだ。林道なども山に行く人が少しずつ手直しをすれば、大きな災害にはならないと考えている。トヨタ自動車も山が荒れたら産業がダメになることはわかっている。(山本薫)
- ・やはり水量の減少が問題だと思う。それから、もう少し生き物に優しい魚道を整備してほしい。(加藤)

●まとめ(市民部会が期待する流域圏のあり方・今後の市民部会について)

- ・HPにアップされた地図を頼りに名所を巡っている人がいる。市民目線で何か発信すれば、それを利用する市民はいると思う。(高橋)
- ・単に名所の紹介ではなく、流域圏の課題を浮き彫りにした地点選考が必要だ。(山本薫)
- ・今回の意見を図面にまとめて、次の部会でさらに検討を重ねていきたい。(事務局)

今後の予定

■第3回市民部会

日時：平成30年12月14日(金) 14:00~17:00 豊田市崇化館交流館3階 第1研修室



◆お問合せ◆

矢作川流域圏懇談会事務局

〒441-8149 愛知県豊橋市中野町字平西1-6 国土交通省豊橋河川事務所 事業対策官 神本、調査係長 服部

TEL 0532(48)8107/FAX 0532(48)8100

指導員 宇野

*矢作川に関する情報は、矢作川流域圏懇談会メーリングリスト(yahagigawa@ijinet.or.jp)までお送りください。

